

歴史的必然性と個人の役割

人間の行為の必然性を確定し、意志の自由にかんするくだらない作り話を排斥する決定論の思想は、理性をも、人間の良心をも、人間の活動の評価をも、いささかも抹殺するものではない。まさにその反対である。決定論的見解のもとではじめて厳密な正しい評価が可能となり、ありとあらゆるものを自由意志のせいには帰着させることがなくなる。同様に歴史的必然性の概念も、また歴史における個人の役割をいささかもそこなうものではない。全歴史は、疑いもなく行為者であるところの諸個人の活動から成りたっている。個人の社会的活動を評価するさいに生じる現実的問題は、どのような条件のもとでこの活動に成功が保障されるか、また、この活動が相対立する諸行為の大海に沈没してしまう孤立的な行為にとどまらないための保障は、どこにあるか、ということである。社会民主主義者や、その他のロシアの社会主義者がいろいろに解決している問題、すなわち、社会主義体制の実現を目的とする活動が、重大な成果をおさめるには、それはどのようにして大衆をひきつけなければならないかという問題も、まさにこれなのである。明らかに、この問題の解決は、ロシアにおける社会勢力の配置や、ロシアの現実を形成している階級闘争やにかんする考え方に、じかに、直接に依存している。

第一巻 人民の友とはなにか P155

コメント

歴史的必然性とその具体的道すじを正しくつかむことが私たちの活動（社会主義体制の実現を目的とする）成功させる保障となる。

今、資本主義の矛盾が目に見える形で国民の前に現れていることをしっかりとつかみ、そのことを明確に訴える必要がある。